

教員 EA プロジェクト応募資料

応募区分	教育実践部門
所属（園・学校名）	揖斐川町立谷汲中学校
氏名	香田 勝頼
取り組んだ課題	【総合的な学習の時間】未来社会を逞しく創造できる人材の育成～ワクワクの追究を通して～ 総合的な学習の時間に、「谷汲に生きる～世界の谷汲～」をテーマに谷汲の魅力を世界に発信していこうという取組を行った。生徒の主体性を育み、課題設定し、解決していく能力の育成を図った。
具体的な活動内容	<p>1 はじめに</p> <p>本校では、カリキュラムのない総合的な学習の時間に挑戦した。教員が生徒のために事前にゴールに向けて準備をするのではなく、生徒自ら課題を見つけ、解決の方法を考え、自分の力で解決をしていく過程を大切にしたい。上手くいかないこともあるが、それも大事な経験ととらえ、次の方法を考えていけるようにした。逞しく創造できる人材を育成するために、「やってみたい」を引き出しながら、教員は生徒に寄り添い、実践を進めた。</p> <p>2 活動内容</p> <p>全校が「食品班」「もの作り班」「YouTube 班」「研究班」に分かれ、さらに 14 のプロジェクトで実施した。実践の一部を紹介する。</p> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> </div> <p>（実践 1）谷汲サイダープロジェクト</p> <p>「谷汲の水でサイダーを作り、谷汲を広めたい！」という願いで、長良川サイダーを販売している岐阜市の伊奈波商會さんにメールで思いを伝えた。オンラインなどで話す機会をいただき、谷汲の水でサイダーを作ると開発で 1 年以上かかることや資金もかかることを教えてもらい、難しいことが分かった。ただ、谷汲をみんなに知ってもらおうという願いをかなえるのなら、オリジナルラベルを作成し「谷汲サイダー」を作ることは可能であると提案いただいた。そして、谷汲サイダーを完成させ、いびがわマラソンや華厳寺の紅葉祭りなどで販売もすることができた。また、その売り上げの一部は、地域の公園に桜を植樹する取組に寄付をさせてもらい、谷汲の発展に貢献できた。</p> <p>（実践 2）イルミネーション Project</p> <p>「イルミネーションについて研究し、冬にもたくさんの方が来てもらえる観光地にしたい！」という願いで、イルミネーション Project を勧めた。使わなくなったイルミネーションを集める方法を考え、チラシな</p>

	<p>どで呼びかけたがあまり集まらなかった。そこで、3月に華嚴寺で行われた竹のぬくもりイルミネーションを借りることはできないかと、揖斐川町役場商工観光課にお願いにいった。借りることはできなかったが、制作できることを教えてもらい、自分たちで材料を集めて制作を試みた。これがきっかけで、華嚴寺の竹のぬくもりイルミネーションに谷汲中学校も参加をすることができ、全校生徒の作品が華嚴寺に並んだ。</p>
<p>取り組み成果</p>	<p>「学校は楽しいですか？ (R5年4月)」のアンケートに100%の生徒が肯定的な回答であった。自分たちの「やってみたい」を自らの手で実現していくことは、生徒の自信につながり、さらにふるさとへの愛着にもつながっていった。令和4年度は、のべ70人の生徒が、自ら積極的に地域のボランティアに参加した。華嚴寺の駐車場で開催されたサンサンフリーマーケットでは、生徒が開会式の運営に携わったり、総合的な学習の時間で制作したものを販売したり、ウクライナ支援への募金活動をしたりすることもできた。</p> <p>また、企業や地域の方と連携をすることで、いろいろな大人の考えや生き方に触れることもでき、キャリア教育にもつなげることができた。</p> <p>今年度、生徒から谷汲夏祭りをやりたいと企画案が学校長に提出された。生徒自ら「やりたい」と声をあげ、企画案や計画案が出すことができるようになったのは大きな成果である。現在、実行委員を募集し、いろいろなチームに分かれて準備を進めている。また、総合的な学習の時間でお世話になった方や地域の方も招待し、感謝の気持ちを伝えたいと生徒から申し出があった。ふるさとへの愛着の心が育まれている証であると感じる。</p>
<p>今後の活動展開 ※取り組んだ活動を今後どのように展開するかなど具体的に記述</p>	<p>今年度の総合的な学習の時間は、同一テーマでの最終の年となる。昨年度の取組を生かし、継続する生徒、新しいプロジェクトに挑戦する生徒もいる。新たに、タブレットを活用してゲームやラインスタンプを制作したり、昨年度、桜の植樹をした大谷桜公園をプロデュースしたりするチームなどもある。今年度は、目標を明確にし、それを達成できるように活動を進めていく。</p> <p>さらに、この取組を地域にも発信して、共に谷汲を盛り上げていけるようにしていきたい。</p>
<p>校長(園長) 所見</p>	<p>生徒が主体的に活動できるように、教師は教えすぎず指導ではなく支援を中心に行っている。その結果、生徒自らがPDCAサイクルで体験的な学びができてきている点を評価する。</p> <p>また、この取組が地域に広がり、校外の方が学校に関心を持ち、協力していただけるようになったことも、本取組が開かれた学校づくりに寄与したことも評価できる。</p>

総合的な学習の時間テーマ

世界の谷汲 ～谷汲を世界へ発信～

グループ別活動一覧

つけたい力

- 課題発見の力 見通す力 事実や関係を把握する力 情報を収集する力
相手に分かりやすく伝える力 生活に生かそうとする力

Team 名	テーマとの関連(目的)	内容
① 揖斐茶スイーツ Project	抹茶スイーツを作り、谷汲で販売することによって、谷汲に来る観光客を増やし、谷汲のことを知っている人を増やしたい。	揖斐茶を使ったスイーツについて研究をしていった。みわ屋さんとコラボをして、抹茶シフォンケーキを完成することができ、サンサンフリーマーケットで50個完売することができた。
② 谷汲サイダープロジェクト	谷汲の水を使った谷汲サイダーを作り、谷汲のよさを広めたり、売り上げを募金したりして谷汲のために使ったりしたい。	谷汲の水を使ったサイダーを作ることを目指した。その過程で長良川サイダーを製造販売する伊奈波商會さんと出会い、谷汲のオリジナルラベルを考案し、商品化することができた。いびがわマラソンで販売したり、谷汲地域での販売委託店舗を開拓したりした。
③ わたしとジャムとシロップと	谷汲の果物や野菜で作ったシロップ(ジャム)を開発して、販売をしていきたい。	ぎふコーラのシロップを作っている四井さんから、アドバイスをもらいながら活動を進めていった。サンサンフリーマーケットでは、お客さんにアンケートなどをとり、「さつまいも」を使ったジャムを作ることに決定した。配合なども工夫をして、ぎふコーラの入ったオリジナルのさつまいもジャムを完成することができた。
④ Team 谷グミ	谷汲にちなんだお菓子を開発・販売し、多くの人に谷汲のことを知ってもらいたい。	「谷グミ」というグミを商品化したいといろいろな企業にメールを送ったが、時間や費用面から実現することは困難だった。谷汲あられのだるま堂へ行き、オリジナルの商品化について相談した。時間的に商品化まですることはできなかったため、オリジナルのラベルを作成させてもらい販売をすることになった。
⑤ Discovery TANIGUMI	YouTube に作成した動画をアップして、谷汲のよさを伝えたい。	谷汲の食べ物やイベントなどの取材に行った。写真や動画などを集めて、構成を考えて動画を作成した。谷汲中学校の YouTube チャンネル「Discovery TANIGUMI」にアップしてある。
⑥ 運動能力向上プロジェクト	谷汲山の各地で楽しみながら小学生から、高校生向けの健康、トレーニングを SNS にのせて谷汲の魅力を多くの人に知ってもらいたい。	谷汲山は、四季折々の景色のよい場所がたくさんある。実際に走り、谷汲山でどのようなトレーニングができるのかやどのような効果が期待できるのかについてまとめた。
⑦ 谷汲野生動物研究所	谷汲の野生動物の研究をし、サンサンフリーマーケットなどで多くの人に知ってもらいたい。また、YouTube や Instagram 等で発信をし、谷汲について多くの人に知ってもらいたい。	全校の生徒にアンケートをとり、谷汲にいる野生動物について調査をし研究した。谷汲地区でみられる野生動物について地図にまとめたり、動画にまとめたりして多くの人に発信できるようにした。そして、野生動物との共生について考えた。
⑧ 昆虫探偵局	谷汲にはギフチョウなどの固有の昆虫がいる。谷汲にいる昆虫について研究をし、多くの人に谷汲の昆虫について知ってもらいたい。	昆虫を探したり、飼育したりして昆虫の生態について研究をしていった。また、谷汲昆虫館に行き、昆虫について調べた。また、花長下神社に行き、谷汲にしかないヒメハルゼミの抜け殻を探した。
⑨ イルミネーション Project	イルミネーションについて研究をし、冬にもたくさんの方が来もらえる観光地にしたい。	冬場の谷汲に人を呼ぶには、イルミネーションがいいのではないかと考えて活動を始めた。イルミネーションを集めることがなかなかできなかったため、町役場の方に竹イルミネーションを貸してもらおうことはできないかと相談にいった。貸してもらえなかったため、制作することにした。また、プロジェクションマッピングも作成した。
⑩ 谷汲木工創作部	谷汲の廃材で幼児向けのおもちゃを作り、プレゼントをしたい。	谷汲は自然豊かで、たくさんの廃材があるので、それを使って安全な幼児向けのおもちゃを作りたいと考えた。電動のこぎりやヤスリなどをつかって、アヒルのおもちゃを作った。環境にも子どもにも優しいおもちゃをプレゼントすることができた。
⑪ コケテラリウム	谷汲の苔や素材を使った苔テラリウムを作って、展示会をし、たくさんの人に谷汲について知ってもらい、興味をもってもらいたい。	近年、身近な材料で作ることができ、環境にもよく、おしゃれて育てやすい「コケテラリウム」がブームとなっている。谷汲にもいろいろな種類の苔があるので、それを育成してコケテラリウムを制作した。サンサンフリーマーケットでも6個完売することができた。
⑫ フラワー	谷汲の自然にあるものを生かしてモノを作り、幼稚園や福祉施設に寄付をしていきたい。	谷汲には四季折々の花がたくさん咲いているので、それを使って押し花のしおりを制作した。谷汲図書館などに寄付をして、谷汲の人に喜んでもらうことができた。
⑬ チーム燻製	燻製のよさをたくさんの人に知ってもらえるように燻製を極めたい。谷汲の木を使っておいしい燻製を作れるチップを販売したい。	お手軽に楽しめる段ボール燻製のセットと谷汲の桜の燻製チップを作って、販売しようとして活動を始めた。木を集めてチップにしたり、そのチップを使っていろいろな食材を燻製にしたりしてみた。段ボールの燻製器は熱源が難しくなかなか成功しなかった。
⑭ 文で伝える	谷汲を題材として小説を書き、それをコンテストに応募したい。	文章は人に影響を与えることができるので、読んだ人が「谷汲に行きたい」と思える良い方法だと思った。写真などでは伝わりきらない繊細さを文章で表すことで、その場にいるような想像ができるように書いた。

揖斐川町谷汲中学校の生徒は、地域の活性化や環境整備の一環として、商品開発や販売活動に取り組んでいます。生徒たちは、地域の魅力を最大限に引き出すための商品開発や販売活動に取り組んでいます。

はじける郷土愛 谷汲サイダー

谷汲中生がラベルデザイン



「いびがわマラソン」で販売

谷汲中学校の生徒は、地域の活性化や環境整備の一環として、商品開発や販売活動に取り組んでいます。生徒たちは、地域の魅力を最大限に引き出すための商品開発や販売活動に取り組んでいます。

**商品開発売り上げ
公園整備に桜植樹**
谷汲中学校の生徒は、地域の活性化や環境整備の一環として、商品開発や販売活動に取り組んでいます。生徒たちは、地域の魅力を最大限に引き出すための商品開発や販売活動に取り組んでいます。



「谷汲に生きる！世界の谷汲」をテーマに活動を展開。商品開発は長良川サイダーを手がける岐阜市の「伊奈波醸造」と協力し、生徒がラベルを考案して「谷汲サイダー」を販売。昨年十一月から計八百十本が売れた。地元谷汲あられとともに「菓銘仙」を売り出したグループもあった。売り上げは谷汲の発展のため、公園整備に使った。代表の生徒が山岸さんに目標を贈呈し、一斉に植樹した。苗木には「大きき育ててね」「キレイな花を咲かせよ」など可愛い札を付けた。一年の奮闘博覧さんへは「谷汲の魅力発信して、たくさんの人に食べてもらいたい。各所の一つになった」と話した。(市川勲太郎)

中学生と住民 竹あかり作製



揖斐川町の中学生と住民が、地域の活性化や環境整備の一環として、竹あかりを作製しました。生徒たちは、地域の魅力を最大限に引き出すための商品開発や販売活動に取り組んでいます。



(左)たにぐみ幼稚園に木でつくったおもちゃのプレゼント
(右)サンサンフリーマーケットでの販売



三輪屋(揖斐川町)で、シフォンケーキ作りとサンサンフリーマーケットでの販売